

聖句

弥陀の背に負われて  
あばれても浄土へ参るなり

七里恒順

# 真生

第 78 卷 474 号

<http://canchiin.net>

1・4・7・10月15日発行

【発行所】  
真生同盟本部  
〒105-0011  
東京都港区芝公園  
2-2-13 観智院

【振替】  
00160-6-80674

【電話】  
03 (3431) 1450

【Email】  
shinsei@canchiin.net

【編集兼発行人】  
土屋正道

会費	年額	2,000円
	一部	100円

## 信仰の階梯

## 私の念仏の歩み (2)

土屋 正道

(470号より)

仏への憧れ

自分で念仏を称えようとしても、本気で称えられない自分に気がつきました。「念仏は、いつでも、どこでも、だれにでもできる易しい行だというのに、それさえもで

きない！こんな私には、座禅や滝に打たれるような厳しい行は堪えられないはずがない。さてよ、意志薄弱な私には念仏しかできないからこの行が与えられたのだろうか」父の叱責によって、ようやく念仏を自ら求めるようになった私

# 南無阿弥陀佛

南

弁栄上人名号 (観智院蔵)

でしたが、まだ念仏を積み重ねる行だと思っておりました。アマダブツはどこか遠くにいらっしやるようで、実感を得ることはできませんでした。念仏を敬遠する気持ち、ふつとわいてくる時もありました。

そんな頃、念仏の先達、曾我尾さんに質問しました。「曾我尾さん、どうやらこのごろ念仏信仰が後退したようです」、すると間髪をいれず、「だいじようぶですよ。貴方が忘れても阿弥陀様は放しませんが」といわれました。そうか！念仏は、階段を昇るように善行をつんで (ステップアップして) 悟りに到達する教え (聖道門) ではないんだな！善行の多い少ないに関わらず、たとえ悪行を犯し、人間の階段を転げ落ちたとしても、念仏すれば救われる。だから私の様なものでもお救い頂けるんだ。アマダサマが胸倉つかんで引き上げて下さる。ほんの一瞬のことで、私とアマダサマの主客が逆

転したように感じました。仏に願われた私なんだ!

法然上人の著書『選択本願念仏集』冒頭には、

「南無阿弥陀仏 往生の業には念仏を先とする」

と書かれています。

「はあ、往生の業とは、私の行だけを言うのではないな、本願の念仏ということが重要なんだ。ナムアマダブツは、単なる

## 光明と眞生(二)

土屋 観道 上人(眞生同盟初代主幹)

(前号より)

三 如来の大悲は此の衆生の闇の心を開かんがために、無量の光明を放って、之を救おうとなされているのであります。

然るに衆生の迷いは無智から始まる。だから此の迷いを醒ますには此の無智を破らねばならぬのであります。そして此の無智の無明

呪文ではない。阿弥陀仏に願われている私、私が忘れていても決して阿弥陀様はお忘れにならないんだな」

と思うようになりまして。まだ実感はわきませんでした。「今こうしている時も、光に包まれている」と思う時、光の主を心から懂れる気持ちになつていくことに気がつきました。(続く)

を照破し給うのが如来の智慧光である。けれども此の智慧光が又如来の慈悲光であります。如来の智慧と慈悲とは本来二つあるのではありません。智慧即慈悲、慈悲即智慧であります。

けれども尚一応之を区別して申せばそれは必ずしも区別することの出来ぬものではありません。従つて、智慧と云えば宇宙の道理

を知るが智慧であります。けれども、その智慧はただ単に宇宙の道理を知るばかりでなく、やがては宇宙の真理に一致して、宇宙と我とが不二となるのであります。そして、宇宙と我とが不二となれば、宇宙と我とが一体となるが故に、此の不二の心は万有に対して、一体の心となり、その結果は一切の衆生に対して、自然に愛愍の心を生じ、慈悲の心となりて、之を救うべく、慈悲の活動となつて現われるに至るのであります。

されば宇宙万有の真相をよくよく見れば万法一として如来の慈光を受けざるはなく、そのまた奥には如来の智光を蒙らぬは無いのであります。ただそれを知らぬは吾々がまだ凡夫なるが故であります。如来の光明は已に十劫の昔から、十方法界を照して、ところとしてその光明の至らぬところは無いのであります。

四 『法華経』の中に釈尊は吾々に

向かつて、一切衆生は吾子なりと申されております。されば私達は之を直に信じて自ら仏子なりとすることは出来ぬものでしょうか。たとい如何に愚にして罪深きものと雖も、そのために吾々が仏子でないこと云うことは『法華経』の上では云えぬのであります。而も、吾々は単に此のまま仏子たる許りでなく、一切の衆生悉く仏性を具すと云われております。されば私達にも吾々は仏性を具すと云つてよい。決して悟つてから後に初めて具するのではないのであります。吾々は未だ悟らずと雖も、已に此のままにして、仏子であり、又仏性を具するものであります。我が国の道元禪師は此の悉具仏性について、一切衆生悉具仏性と云つて、

一切の衆生は悉具仏性と云つて、黄金で造つた獅子は悉く黄金なるが如く如来の分身たる一切の衆生は悉くこれ仏性であると云つております。此の点大いに味わうべきものであります。

吾々已に如来のみ子であり、如来としての仏性を悉具するものなれば、如何にして此の仏性を表わすべきか、それはただ如来のみ子として、如来の命じ給う処に直に生きればよいのであります。

釈尊の出世は一切衆生の仏智見を開示悟入するにあることは之また、『法華経』に釈尊が述べられたところであります。久遠実成の本仏は如来の大悲本願を『大無量寿経』の上に説かれている。

されば吾々は今現に如来の光明の中に在って、如来の慈光に保育され、如来を中心として、如来の聖旨に人となり、如来の子として如来の使命に生くべきであります。然るを世人とすれば如来の光明を慈悲の光明と知らずして、色相の光明に捕われるものがあります。然乍ら如来の光明は心光として吾々の知見を開き、仏子の自覚として、仏陀の生活にまで自己を活かすの光明たることを忘れてはならぬのであります。之を即ち眞

生と云う、「眞生」とは如来の光明の裡に眞に生きるの生活であります。それはただ徒らに如来の光

## 生きた大念仏の工夫

(『華開いて佛を見たてまつる(下)』より)

土屋 光道 上人(眞生同盟二代主幹)

今日のわたくしどもに、何が足りないと云って念仏の実践が一番不足しているのではないかと思ひます。宗学の議論や、現代への適応論議が先走って、念仏専修が疎かになつてはなりません。「ただ念仏せよ」ということが、元祖が全生涯をかけた求道研鑽の結論であり御遺誡であつて、「現世を

すぐべき様は念仏の申されん様にすぐべし」という仰せが毎日の生活の規律でなければならぬ筈です。

念仏は、その背景に浄土教教理、更に仏教全体の思想大系を荷つている極めて奥深いものであります。その学的研究が大いに進めらるべきでしょうが、「一文不知の愚鈍の身になして、智者のふるまひを

明の中に遊ぶの宗教ではない、どこまでも眞に生きるの生活であります。(一九三五、九、三)

せていただけ。また、念仏の功德で死んだ人の罪も消え、遠い昔に亡くなった方や御先祖様達も浮かんで助かる。更に死後だけでなく、現世の御利益もあつて、重い病氣も軽く済み、短い寿命も延長され、様々な災害危難もまぬがれる、と説かれています。が、お念仏の功德は単にそれだけにとどまらぬことを、はつきりと認識しなくてはならぬと思ひます。

本来、選択本願の念仏は、凡愚最劣・極悪非道の輩をも包み、大悲光明に懐きとる。一切の差別を撥無し、何物にも障碍せられざる大念仏であります。無量寿・無量光の宇宙大生命の功德であり、天地大自自然万法の活動そのものが、アミダの働きであり、如来の躍動ならざるものはありません。従つて、一切が念仏している、念仏によつて一切たり得ているのが実相であります。この大生命の脈搏のリズムが、人間の声に共鳴したのが、ナムアミダ仏の口称と現

成したのです。

古来、溪声長広舌、山色清淨心と云うも、法界に遍き弥陀身心の声と姿で、天地一切が念仏の大合唱、大調和を奏でているのです。空気の中心にいて空気を呼吸して生

きているように、無量寿・無量光の中に念仏し、大念仏の中に念仏させられているのが事実です。この宇宙生命の脈動をわが内に感受させていただくところ、活き活きと己が人生に張りが出て、如来のみ心をわが心として活動せずにおれぬ使命観が湧いて来ます。こうし御利益功德をわが内に力強く自覚しなければ、生きた念仏になりません。

次に、念仏に対して現代人が抵抗を感じるのには、古い誤った念仏の理解と同時に、念仏を唱える人のかもし出す雰囲気があります。勿論、念仏をどう唱えようが、それによって念仏の価値が豪も左右されるものでないとも云えますが、何か声の響きの中に、如来の光明

の中に生き働く俸せ、弥陀の本願に遇えた感激、ただ一向ひたむきな精進よりも、何かしら、もの悲しい、死気のただよう蔭や、人生に真剣に立ち向う気力のない無責任なあきらめ、他力おまかせの安易感、或いは、現世・来世の安楽を御利益をあてにした呪術的祈祷的念仏、こうした雰囲気を一掃して、元祖の仰せられる、目が覚めるような生き生きた念仏の唱え方を研究実修してゆかなければならぬと思います。

「行より信を生ず」で、大行より大信が生ずる道理があり、天地大自然の生命のリズムと調和した大念仏を創唱してゆくべきと思う。

宗教的に考察すれば、念仏も沢山ある修行の一つであります。修行の目的は、ある高い理想を心に懐いて、単純な一定の身体的所作を、一心こめて繰返し繰返し継続することによって、当事者に一つの心の態えを作り出す。人格の心的構造の変化、信念の強化をは

かることです。心が錬えられ、磨かれ、練られ、浄化され、洗練された人格価値が生活態度の上に実現されることに狙いがある。

最近、禪がブームであるが、修行としての念仏は、どんな時と所、いかなる人、人数の多少を問わず効果を發揮する点、禪以上にすぐれた機能を有する。今後、この精神医学的效果を正しく現代に生かすべきであります。また現に、医学的に見て、正しい念仏の呼吸と発声とが非常に酸素の量を高め、

それが現代病のトップを占める脳卒中、狭心症等にきわめて有効であること証明し、古来念仏者に長寿の人が多い点を指摘する研究者が近くにいます。さて、如何なる修行でも、よき環境、よき指導者、高き理想の三つが必須条件であります。この点、今日の世間では三つが揃わず、従って、お念仏が仲々申せない状況です。この際、大自然の風光に恵まれた浄域を道場に開放していただき、各地に別

時念仏会を大いに開設し、真剣な大念仏を工夫し厳修すべきと考えます。

七百年も昔の元祖時代にさえ、平常念仏の外に度々別時念仏を自ら修し、他に勧められたことを思えば、自然に背離し、人為の喧噪に自己を失い、生の連帯感を奪われ、生存の意義、人生の使命を見失った現代に於て、別時念仏の意義は大きいと信じます。

大自然に還り、天地清淨の気に浄化され、我執を捨て、既成觀念を洗い、己れのチツポケな粹を大念仏で打破る時、天地に漲ぎる如来の生命に靈化され、新たに甦えって、如来の聖旨をあらわす使命にもえて、力強く生々と念仏の中に生きる信念を得させて頂くではありませんか。

# 自己を拝む

仏を拝むより、人を拝め。

木仏、金仏を信仰もなく、訳もわからず拝んで居るより、吾が家庭を拝がめ、家人を拝がめ。猫の一匹、植木鉢一つまでが皆如来様でした。

如来様というのは自分ばかり偉い者になって、他の者を皆眼下に見下し、威張って居られる人でなく、一切が真如実相、真理からの現象で、悉く真実でないものはない。真実が色々形を変じて、私達の前に現われ、私達の為めに働いていて下さるのです。だから一切が如々の来現、如来さまです。一人や二人や千万億兆でない。総じて天地が大如来身であって、これを拝まねばならぬ。此の意味があつて初めて石仏塑像も意義があり、天地一切の現象を此の一軀に収め象徴として拝むのです。

## 中野 尅子(善英) 上人

宗教は何かにたより、何かを空想して救われたいと頼む事でもなく、観念する事でもない。真実の眼を開いて実相を徹見し、一切の恩所を知ってコレに感謝し、コレに酬いんが為めに自己を慎み、自己を努むることあります。

だから仏を拝がみ、人を拝がむ事は、やがて自己を拝がみ、自己の中から如来を拝がみ出して行く事です。だから一を拝がむことが同時に一切を拝がむ事であり、一切への感謝を此の一仏へ籠めて拝がむのです。

だから仏を拝がむ事は人を拝がむことであり、人を拝がむ事が仏を拝がむことです。物を拝がみ、諸事諸行を拝がむ事は、そのまま天地の真実義、理想への動きを拝がむ事であり、一神教などと云うて一神、一仏より他の本然相が拝

がめぬような事では、其の一神はワンマン振りの主宰者の仏です。

自己を拝がめ、自己を拝がめ、自己を拝がみぬいて高めて行くところが出来る。これが「本然の自己——自己」である。一番の宝が自己の中に隠れて居り、自己の中から飛出して来るのでした。

## 第五十六回

### 眞生同盟本部大会

十一月九日(金)～十一日(日)

本部大会参加者

- |   |   |       |
|---|---|-------|
| 東 | 京 | 土屋正道  |
| 兵 | 庫 | 山岡和知  |
| 埼 | 玉 | 蘇田三千穂 |
| 埼 | 玉 | 山崎淳史  |
| 千 | 葉 | 服部道子  |
| 東 | 京 | 佐藤利恵子 |
| 東 | 京 | 局 洋次郎 |
| 東 | 京 | 上田密記子 |
| 東 | 京 | 大田眞祐  |
| 東 | 京 | 高崎年章  |

神奈川 王 紅蓄  
大阪 森島 米史郎

長野 福田 哲也  
長野 福田 由貴  
東京 中村 立道  
東京 諸澤 正俊  
東京 木村 吉裕  
埼 玉 酒井 正空

東京 土屋 由恵  
東京 土屋 遥  
東京 土屋 法道

## 第一回 秋の文化祭(十一月十日)

秋の文化祭参加者

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 秋の文化祭参加者         | 土屋正道・山岡和知・蘇田三千穂 |
| 服部道子・佐藤利恵子・上田密記子 | 大田眞祐・高崎年章・王紅蓄   |
| 福田由貴・中村立道・諸澤正俊   | 土屋由恵・土屋遥・土屋法道   |
| 土屋由恵・土屋遥・土屋法道    | 酒井正空・鄭一樹・小川道子   |
| 飯塚和美・金丸昌弘・川野誠    | 小笠原由紀・八木陽子・酒井純三 |
| 酒井礼子・磯辺拳慈・山本照子   |                 |

吉本洋子・堀江八千生・安田さん・  
石井巴徳・小笠原義成・高橋隆雄・  
谷口英夫・田中勇祐・吉原稜子・  
長谷川克也・三木将司・古塚深雪・  
手塚浩子・川野誠・古今亭志ん松・  
柳家花いち・柴山加奈子・菊池陽子

### 観智院秋の文化祭報告

（先ずは一步前に）

眞生同盟 事務局

諸澤 正俊

平成三十年度眞生同盟の本部大会が、十一月九日から三日間開催されました。例年の大会に新しい風をとの思いから、大会期間中に「観智院秋の文化祭」を開催することを、理事会に提案して、承認を頂きました。

事務局一丸となって準備を進めて、当日を迎えました。

朝十時、眞生阿弥陀如来に文化祭の成功を、住職導師の元、スタッフ、参加者共々祈願いたしました。法要の後は普段から観智院、多



鳳友会の和楽器演奏



そば打ち道場の実演



茶道教室の皆様

開院にて活動されている、裏千家茶道教室茶席、そば打ち道場の実演、書道教室の指導、タロット占い、鳳友会の和楽器演奏会、柳家花いちさん、古今亭志ん松さんによる落語会、書画展など盛りだくさんのイベントがスタート致しました。

お寺側からも、住職の尺八、酒井上人のギター演奏、私の阿波踊りと、文化祭に色を添えさせて頂きました。

参加された皆様、スタッフからは、「楽しい一日でした」との感想をいただきました。

一方初めての取り組みで、沢山の反省、今後の課題を残しましたが、それを糧にして次回は更に良ります。



書道教室の指導



眞生同盟本部大会最終日 増上寺大殿前

多聞院第四世 佐藤孝隆上人

七回忌法要・報恩念仏会

二月三日(日)

十二時三十分～

報恩念仏(多聞院)

十五時～

七回忌法要(観智院)

香語

それ惟るに、

念仏の元祖法然上人は、

彼の『登山状』に宣えり。

「我、まさに今、多生曠劫を経て、

生まれ難き人界に生まれて、無量劫を送りて、会いがたき仏教に会えり。釈尊の在世に逢わざる事は悲しみなり

とはいえども、教法流布の世に

遭う事を得たるは、是喜びなり」と。

本日ここに、大本山増上寺山内

多聞院第四世

清蓮社明譽上人蛭雪孝隆老和尚

第七回忌にあたり、法類、檀信

徒、眞生同盟、親族等、

合い集い念仏回向し奉る。

孝隆老和尚は港区麻布に在家の

十五人兄弟の十四番目として生

を受ける。

文学、特に和歌を愛し夜学で國

學院大学を卒業。港区役所給仕

時代に土屋観道上人の長女美智

と結婚。観道上人の徒弟として

光道上人の後を継ぎ、多聞院に

晋董。観智院責任役員、眞生同

盟会計として光道上人を支えら

れた。

請い願わくは、孝隆老和尚、浄

土の行願円満の後はこの土に還

来され人天衆生を導き給わん事を。

これ時、平成三十一年二月三日

多聞五世 観智院二十三世

信譽正道 敬つて申す

参列者

土屋正道・新谷仁海・佐藤美智・

谷口英夫・宇田川きぬ・都丸慶子・

宇田川隆正・佐藤龍雄・土屋由恵・

土屋法道・森恵子・森弘・

岡村涌亮・服部道子・佐藤利恵子・

藤沢裕子・蘇田三千穂・土田晃弘・

上田密記子・堀タイ子・佐川久美子・

梅野陽久・加藤裕司・山本直志・

中村立道・諸澤正俊・田中典幸・

酒井正空



法要参列者と共に



観智院での法要

### チャリティーコンサート

十二月十五日 十六時

癌サバイバーの方の自然治療力を応援するために、耳と眼の保養をしておらうと、ジャズシンガーの丸山薫さん、ジャズギタリストの山口友生さん、フラダンスの井畑京子さん率いるフラダンスチーム・モアニケアラフラシスターズをお呼びしてチャリティーコンサートを開催いたしました。

当日は多くの方々がご来場くださいました。



癌サバイバー上田千秋さんを囲んで



モアニケアラフラシスターズの皆様



歌とギターデュオによるジャズ演奏

### 念仏道友の皆様各位

眞生同盟会費納入のお願い

眞生同盟主幹 土屋 正道  
聖名

慈光の中に、念仏精進のこととお慶び申し上げます。

日頃、眞生同盟の活動にご理解、ご支援をいただきまことにありがとうございます。

恐れ入りますが2019年度眞生同盟会費納入をお願い申し上げます。郵便振替用紙を同封させていただきます。

いただきました。すでにご芳志をお寄せ賜った方々には、失礼と存じますがご容赦くださいませ。

眞生同盟は、大正11年(1922年)土屋観道上人が立ち上げた「眞生運動」に共鳴した方々が組織した「念仏ネットワーク」です。

初代主幹観道上人、二代主幹光道上人ゆかりの方々に支えられ、宗派を超えた全国のつながりは100年を迎えようとしております。

現在、機関誌『眞生』は170

0部、年4回発行しております。

大正11年より連綿と発行を続けており、会費納入の有無に関わりなく有縁の方にお配りしてまいりました。昨今郵便局の第3種郵便物(1通62円)の規定が厳しくなり、

送付の7割以上を有料にし、その収入を明示したものを毎年提出することが義務化されました。如來の慈光宣伝のため発行を続けていきたいと存じます。メール便等へ

の変更も視野に入れつつ対応を検討してまいります。

何卒お支えのほどよろしくお願ひ申し上げます。

合掌

### 行事案内

松禅院

中野上人追善念仏会

先師中野善英上人は、「大念仏でどんどん進め!」とお示し下さいました。

我が信仰が停滞していないか省

みて、「如来のみが現れることを」  
祈りましょう。

御登壇をお待ちしております。

松禅院念仏会世話人一同

日時：四月十三日(土) 十三時～

十四日(日) 十三時～

道場：比叡山飯室谷 松禅院

〒520-1116

滋賀県大津町坂本本町4239

tel 077-579-4840

(会期中)

JR湖西線 比叡山坂本駅よりタ

クシー 不動堂隣り

会費：一泊 三千円 日帰り千円

### 柏崎念仏修養会

日時：五月二十九日(水) 十二時三

十分～三十日(木) 十五時

三十分

集合：柏崎駅 十二時三十分

道場：椎谷観音堂市内浄光寺別院

会費：志納

宿泊：シーユース雷音(宿泊費別途)

懇親会：五千円

椎谷観音堂で念仏法話、夕刻に  
市内浄光寺別院の書院に移ります。  
申込み締切 五月二十四日

### 六時礼讃別時念仏会

日時：六月七日(金) 十八時半

～八日(土) 十八時

道場：観智院本堂

※夕食を済ませお越し下さい。

会費：五千円

服装：自由(僧侶はできれば黒如)

持物：法要集(礼誦法)

※お持ちでない方はご用意いたし

ます。

一日を六時に分け、四時間ごと

に仏を讃える善導大師の『六時礼

讃』を称え、仏様の周りを行道散

華して廻ります。

申込み締切：六月四日

各種行事申込み先

観智院

FAX 03-3431-7807

Email masamichi@email.ne.jp

### 弁栄上人百回忌浄財報告

多くの方より、ご浄財を頂戴い  
たしました。心より御礼申し上げます  
ます。以下順不同ながら、『眞生』  
四七二号の前報告から平成三十一年  
二月現在までに、確認できた方  
のご芳名を記させて頂きます。

◆金百万円

辻田 剛一様 徳林院様(大阪)

◆金三十万円

宗教法人光明園様(東京)

善隣寺様(長崎) 善光寺様(千葉)

◆金十万円

藤堂 俊英様 松壽寺様(青森)

深町 興光様 種善寺様(福岡)

◆金五万円

浄土寺様(福岡) 佐藤 義一様

西蓮寺様(愛知) 浅野 文夫様

コバヤシジヨウネン様

極楽寺様(東京) 仁科 拓司様

谷性寺様(愛知) 安養寺様(大分)

正行寺様(千葉)

◆金三万円

大田 眞祐様 筒井 由美子様

興仁寺様(福島) 大菅 基之様  
光善寺様(大阪) 浄円寺様(佐賀)  
佐久間 郁明様

蓮勝寺様(神奈川) 極楽寺様(広島)

◆金二万円

青木 博司様 山本 サチ子様

大成寺様(北海道) 今西 陽子様

◆金一万円

本松 三千子様 北條 憲雄様

宝輪寺様(茨城) 仁壽院様(東京)

麻生 信子様 丸山 幾夫様

教蓮寺様(東京) 加澤 昌人様

岩田 辰男様 生田 家吉様

石川 輝良様 平林 つや子様

大庭 明生様 馬場 芳枝様

神谷 得祐様 花房 尚美様

浄國寺様(茨城) 若山 正夫様

西 美智子様 光明寺様(滋賀)

酒井 正空 福永 有紀子様

至心に感謝申し上げます。慈業  
完遂の為、何卒、ご支援よろしく  
お願い致します。

山崎弁栄上人讃仰会

GYŌKAI

# 行誠と弁栄展

「明治第一の高僧」  
 福田行誠上人 廃仏毀釈より  
 日本仏教再興百五十年記念  
 「念仏三昧の聖者」  
 山崎弁栄上人 百回忌記念



2019.  
**5.11. (土) - 19. (日)**

【開館時間】 土日:10時~17時 / 平日:14時~19時

@両国回向院 (会場:本堂三階)

〒130-0026 東京都墨田区両国2丁目8-10

【交通】 JR総武線両国駅西口より徒歩3分、  
 地下鉄大江戸線両国駅より徒歩10分

拝観料：無料

◆講演と法要 (会場はすべて回向院本堂 / 申し込み不要)  
 講演者やその他の詳細は下記HPへ

「廃仏毀釈~150年目の寺院消滅~」5月12日(日)14時~  
 鴉飼 秀徳氏 ジャーナリストで僧侶  
 著書「寺院消滅」や「仏教抹殺」など

「カトリックと弁栄聖者の普遍性」5月18日(土)14時~  
 加藤 智神父 カトリック川越教会司祭  
 元・英国国教会司祭

「行誠上人の生涯」5月19日(日)14時30分~  
 福田 行慈上人 行誠上人ゆかりの本誓寺住職  
 「平成新修福田行誠上人全集」監修者

「両上人追恩とリンちゃん供養法要」5月19日(日)16時~  
 両上人有縁の松戸の地で、痛ましくも命を奪われたリンちゃんの供養

お問い合わせ [aketamaster01@gmail.com](mailto:aketamaster01@gmail.com)  
 090-4340-1813 (担当金田)  
<http://www.bennei.net/>



【主催】山崎弁栄上人顕仰会・両国回向院  
 【後援】在日ベトナム仏教信者会  
 【事務局】〒111-0022 東京都台東区清川1丁目8-11  
 光照院方(実行委員長 吉水岳彦)

BEN'NEI



# 山崎弁栄上人百回忌音楽法要 並びにシンポジウム



入場無料

《特別記念講演》 若松英輔氏

「あなたが真実に

目覚める道」

《時》2019年5月12日(日)午後1時より

《会場》光明学園相模原高等学校

(神奈川県相模原市南区当麻856)  
◎JR相模線原当麻駅下車7分

午後1時 受付

午後1時30分～2時30分

◎山崎弁栄上人百回忌音楽法要

〈導師〉八木季生増上寺法主

〈演奏〉

光明学園相模原高等学校和太鼓部

はちまん正人(ピアノ)

矢野司空(尺八)

午後3時～5時30分

◎特別記念講演・シンポジウム

「弁栄上人の現代的意義」

〈パネラー〉

若松英輔氏(東京工業大学教授)

藤本浄彦師(佛教大学名誉教授)

藤田庄市氏(国際宗教研究所研究員)

〈コーディネーター〉

近藤伸介氏(佛教大学研究員)

※期間中「弁栄上人遺墨展」を開催

(修養室その他)



HPはこちらから

【問い合わせ・申込み】

fax.084-951-2178/e-mail: bennei.net@gmail.com

【主催】山崎弁栄上人讃仰会

【共催】一般財団法人光明会 眞生同盟

【協力】学校法人 光明学園相模原高等学校

# 東京の中心で仏の名を呼ぶ 第14回増上寺24時間不断念仏会



- ・24時間、ノンストップの念仏会です。ただひたすら「なむあみだぶつ」と称え続けます。途中で五体投地や行道(仏さまの周りを巡る)による念仏も加えます。
- ・途中からの参加、中途での退場、中抜け、30分参加だってOKです。お勤め帰りや観光のついででも歓迎します。真夜中でも構いません。会場内には必ず誰かがいて、あなたと祈りをともにします。
- ・疲れたら控室で休みましょう(湯茶はどなたも随時摂れます)。
- ・長時間(概ね6時間以上)参加者で希望の方は修養証(参加証)を発行します。
- ・数珠や輪袈裟をお持ちでしたらぜひお持ち下さい(宗旨不問)。僧侶の方はできれば黒衣・如法衣にて。

日時:2019年4月27日(土)13:00~4月28日(日)13:00

会場:浄土宗大本山増上寺(港区芝公園4-7-35)

会費:5,000円(夕・朝食料金込み)

但し、ショート参加(概ね2時間まで)ワンコイン

※ショート参加は食事の提供はありません

燈籠:ご志納 2,000円より(ミニ燈籠500円は当日申込み)

※ご来場でない方の献燈料は、現金書留か

郵便振替(00130-4-705649 観智院)で事務局にご送金下さい。

## 日程(変更する場合あり)

4月27日(土)

4月28日(日)

12:15 受付開始

1:00 礼拝 or 行道

12:30 オリエンテーション

5:00 礼拝 or 行道

12:45 開白(開始にあたり祈願)

5:30 大殿朝勤行(希望者のみ)

13:00 不断念仏開始

7:00~8:00 朝食(事前申込者)

以降24時間ノンストップ

9:00 礼拝 or 行道

17:00 礼拝 or 行道

10:00~11:00 増上寺紹介・境内拝観(希望者のみ)

18:00~19:00 夕食(手打ちそば)

13:00 結願(終了にあたり感謝と回向)

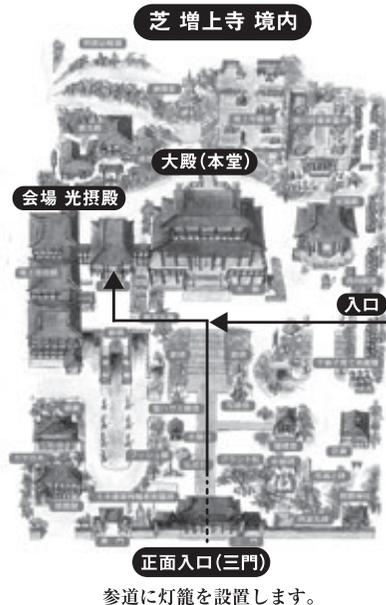
21:00 礼拝 or 行道

14:00 解散

申込先:24時間不断念仏会 事務局

〒105-0011 東京都港区芝公園2-2-13 観智院内

FAX:03-3431-7807 本行事特設E-Mail:nenbutsu24@hotmail.co.jp



参道に燈籠を設置します。

詳しくは、ホームページへ  
<http://canchiin.net>

## 【参加申込書】

私は4月27日~4月28日に開催の不断念仏会に下記の内容で参加を申し込みます。

\_\_\_月\_\_\_日

お名前(ふりがな)	
連絡先	電話: _____ E-mail: _____
おところ	〒 _____
朝食 (○をおつけ下さい)	要・不要 朝食申し込みに関り26日〆切
参加予定 (○をおつけ下さい)	4月___日___時___分から___日___時___分まで(当日予定変更可) 28日午前 増上寺境内拝観 希望する・希望しない
修養証	要・不要 (6時間以上参加の方は以上どちらかに○をおつけ下さい)
燈籠 願意 (希望者のみ記入)	(世界平和、震災復興祈願、自家先祖供養など随意)

※ご記入の上、上記申込先まで Fax が郵便にてお送り下さい。E-mail の場合は、件名を 24 時間申込として、上記事項を本文に記載下さい。